

特集

あなたの骨は大丈夫？

整形外科を充実させた岡谷市民病院の取り組み

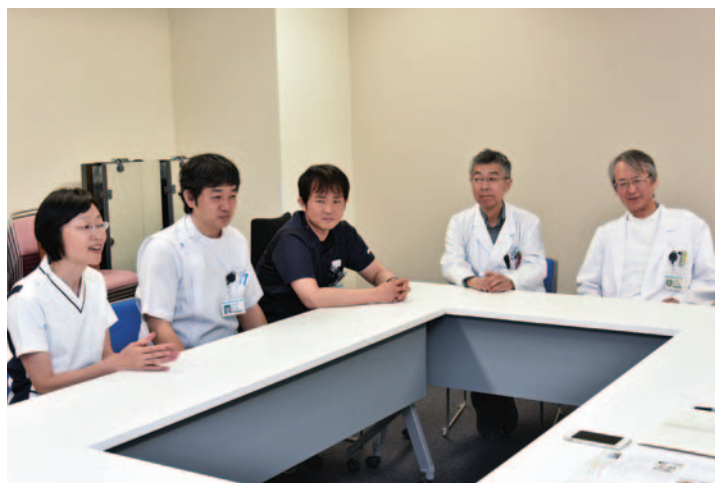
高齢化が進み健康寿命が延びるなか、人生最後のリスクといえるのが、転倒や骨粗しょう症に起因する骨折です。

場合によっては寝たきりになりかねない高齢者の骨折。一方で、スポーツや事故による若年者の骨折も減ってはいません。どちらの場合も日常生活に復帰するには、手術からリハビリ、そして退院後のケアまでの切れ目のない診療体制が大切になってきます。

岡谷市民病院では、回復期リハビリテーション病棟を持つとともに、新たに2名の専門医が着任したことで、整形外科の診療体制をより充実させています。高齢化の進む岡谷市にとって、力強い支えとなる岡谷市民病院 整形外科の取り組みを、今月は紹介します。

手術からリハビリまで 切れ目のない治療体制

内山医師 今年から上肢（肩から手の指先まで）を専門とする医師が増え、整形外科医が2名から4名になることで、いろいろな疾患に対応できるようになりました。これまで伊那、諏訪地域には上肢の専門医がいなかったこともあり、各医院から相談を受けたりすること、この地域の中心的な役割を果たせる



右から、内山茂晴医師、春日和夫医師、鴨居史樹医師、林幸治医師、和平美香リハビリテーション科副技師長（八幡純治リハビリテーション科技師長には、後ほどお話をうかがいました）

ようになりました。もちろん、骨折全般に対応できますので、安心して確実な整形外科治療を提供できると思います。

八幡技師長 岡

谷市民病院には回復期リハビリテーション病棟があり、回復に時間のかかる濃度の濃いリハビリが必要な患者さんに対し、充実した体制が整っています。また、上肢専門の先生がいることで、各患者さんの状態に合った、より細かな機能回復プログラムができるようになります。整形外科がある病院に、必ずしも回復期リハビリテーション病棟があるわけではないので、市民病院としては貴重な存在かもしれません。



骨折した患者さんの骨の強度や状態は、手術をした者が一番よくわかりますので、そうした情報は細かくリハビリテーション科のスタッフに伝えています。骨の状態や、固定方法

内山医師

骨折した患者さんの骨の強度や状態は、手術をした者が一番よくわかりますので、そうした情報は細かくリハビリテーション科のスタッフに伝えています。骨の状態や、固定方法

によってリハビリの方法などが変わってきますので、こうしたきめ細かな連携ができるのも、この病院の特徴といえます。

鴨居医師 高

年齢には背中、大腿部と手首の骨折が多いのですが、それぞれに回復へのアプローチが違ってきます。この病院では急性期から回復期までの一貫した治療ができ、「設備がないから転院してください」ということはありませんので、患者さんにとっても、メリットは大きいのではないのでしょうか。



「いつの間にか骨折」の原因 骨粗しょう症とその治療

林医師

高齢者の骨折には、骨粗しょう症が原因の、腰椎や胸椎の椎体骨折も多くあります。折れていても動ける人も多く、痛くなつたので救急搬送されてきて、検査してみると折れている。テレビなどでいわれている、いわゆる「いつの間にか骨折」ですね。こうした患者さんは2度3度と、骨折の連鎖を起こす可能性が高く、そうすると、それまで自分でできていたことが、



ひとりではできなくなり、介助が必要になってきます。骨折後は骨粗しょう症の治療を受けていただくようにして、次の骨折を起こさないように努めています。内山先生が来てから、骨粗しょう症の治療がより充実しましたので、健康寿命を延ばす意味でも、骨粗しょう症の治療というのは、これからの時代、とても大切なことになってくると思います。

春日医師 ここ

10年ほどで、骨粗しょう症の各種の新しい治療法が使えるようになってきていて、患者さんの生活環境など



に合わせた治療が行えるようになりました。例えば1年に1回や半年に1回の注射、週に1回や毎日の自己注射というのがあります。新しい骨を増やしていく薬もあれば、古い骨を残しながら骨の量を増やしていくという薬もあります。特に女性は閉経とともに女性ホルモンが減り、骨粗しょう症になるリスクが高いとされています。骨に対し女性ホルモンと同様に作用しながら、骨のカルシウムが体内に溶け出すのを抑える薬なども使えるようになりましたので、高齢

の女性の再骨折リスクを減らすことができます。

内山医師

もちろん、骨粗しょう症治療をしたからといって絶対に再骨折しないわけではありませんが、治療をすることによって、再骨折を減らせることが統計的には明らかになっています。骨粗しょう症治療は、しないよりは、した方がよいと言えます。

機能障害に直結する上肢の骨折

高度な手術とリハビリで回復

内山医師

救急患者の受け入れも行っていますので、岡谷市民病院では、高齢者に限らず、若年者の骨折患者も多くいます。おおよそ半分が

高齢者で半

分が若年者

なので、二

極化してい

るともいえ

ます。高齢

者の大腿部

骨折もそう

ですが、若

年者におい

て上肢の骨

折は、日常

生活に対す

る機能障害

となること

が多く、た



だ骨がくっつけばよいだけではないのです。神経の縫合などの特殊性の高い手術と、患者さん一人ひとりの状態に合った、リハビリプログラムが必要になってきます。

鴨居医師

手には神経、血管、腱、骨、皮膚といった細かい組織が入っていて、指は細かい動作をするので、その機能を回復さ



せる手術は一般的な手術に比べて特殊性があるといえます。手術に顕微鏡や関節鏡を使える場合は使うのですが、手首のなかを見られるような径の小さな関節鏡も、この病院にはありますので、より精度の高い手術が可能です。

和平副技師長

骨折患者さんには急性期から回復期、そして維持期の切れ目のないリハビリが大切です、わたしたちは365日、手厚いリハビリを提供しています。具体的には基本的な身体機能を回復させる理学療法と、生活に必要



な細かな動作を回復させる作業療法を、患者さんの症状に合わせ、オーバーラップさせながら行っています。特に上肢は、生



水治療法室(歩行練習用プール)



オーダーメイドされた装具

活に必要な細かな動作が多いので、理学療法、作業療法の両面から機能回復を進めています。また、上肢の専門医がいますので、専門医からの指示を細かく反映した装具を、オーダーメイドすることも増えました。水治療法室もあるので、骨折部にあまり負担をかけずに歩行訓練などをしてもらうこともできます。

高齢化が進む現代における 骨粗しょう症治療の意義

ここまで、岡谷市民病院の取り組みをお伝えしてきましたが、その内容は単に整形外科の治療体制が充実した、という話にとどまりません。

健康維持に努め、ガンなどの致命的疾患にならず、元気に生活してきた高齢者に、最後に襲いかかるリスクが、骨粗しょう症などが原因の骨折です。さらに、「いつの間にか骨折」などの椎体骨折は、骨が自身の体重や、骨にかかる負担に耐え切れずに起こるため、ひとつの骨が折れると、別の骨への負荷が増え、骨折の連鎖を引き起こす可能性を持っています。高度な手術や手厚いリハビリが大切なのはもちろんですが、退院後、再び骨折しないための骨粗しょう症治療が、いかに大切かが、わかりただけだと思います。

残念ながら、症状のない人が骨粗しょう症治療を受けたり、骨密度だけを測定してもらう体制は整っていませんので、骨粗しょう症治療は、骨折した後の措置となっているのが現状です。となると、自分の骨の状態が気になりますよね？

今回の岡谷市民病院「市民公開講座」は、『ここまで進んだ!! 骨粗しょう症の最先端医療』と題し、骨粗しょう症について詳しくとりあげます。まずは講座を聞いて、骨粗しょう症治療の現状と、その意義を知っておくのはいかがでしょうか。

問合せ●岡谷市民病院庶務課

(☎23-8000 内線3611)

市民公開講座 ここまで進んだ!! 骨粗しょう症の最先端医療

日時…7月15日(土) 午後2時～4時(1時30分開場) 場所…カノラホール 小ホール

【内容】 座長：岡谷市民病院整形外科部長 内山 茂晴 医師

●「骨粗しょう症と新しい薬物治療」

信州大学医学部附属病院整形外科講師 中村 幸男 先生

●「大腿骨近位部骨折の最先端手術療法」

岡谷市民病院整形外科医長 鴨居 史樹 医師

●「大腿骨近位部骨折に対する当院リハビリテーションの現状」

〈急性期～回復期まで〉

岡谷市民病院リハビリテーション科副技師長 和平 美香 理学療法士

●「骨折後の入院生活と退院に向けての準備」

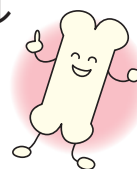
岡谷市民病院西5病棟看護師長 土田 純子 看護師

● パネルディスカッション

座長：内山 茂晴 医師

パネリスト：中村 幸男 先生、春日 和夫 医師、
鴨居 史樹 医師、和平 美香 理学療法士、
土田 純子 看護師

※パネルディスカッション時、質疑を受け付けます。



参加無料

事前申込み不要

問合せ●岡谷市民病院庶務課(☎23-8000 内線3632)